※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真 1）（表 1）などと文中に記載し、右ページに（写真 1）（表 1）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. 4

【様式２】

エントリー学校名：　香川県高松市立鶴尾小学校

活動名：　感染症対策時の子ども支援
コロナ禍にココロ繋げるお便り交換

解決すべき課題：　**感染症対策に伴う臨時休業中、児童の心と学力をどう支えていくのか。**

オンライン学習システムを構築できなくても、「不要不急の外出自粛」が求められる状況下にあっても、今、教員にできる児童の心と学力を支える方法を創出する。

目標・方針：　担任からの手書きメッセージや学習課題を家庭へポスティングし、郵便葉書で返事を求めるシステムを整えることで、児童に直接会えなくても、心を繋げて児童を支えていく。

活動内容：　**３プラス１のお便り交換**　【図１】

教員が、児童の家庭ポストに手書きメッセージと学習課題【表 1】、さらに、未使用葉書を届け（ポスティング）、児童は届いた葉書に自分の思いや課題に対する回答を書いて投函することを、１週間に１回程度、臨時休業期間中繰り返す「お便り交換」を実施する。【写真 1】

また活動継続のため、郵便葉書（書き損じ葉書等）の寄付を保護者や地域住民に求める。【資料 1】

実施日等	テーマ	児童からのお便りの内容
初 回　4/21	子どもの「心を支える」	担任からの手書きメッセージに対する、児童からの心メッセージの回答　→　担任はその都度返信
２回目 4/28	子どもの「学力も支える」	心メッセージとともに、学習課題に対する回答
３回目 5/11	子ども間の「心をつなぐ」	心メッセージとともに、クラス課題に対する回答
	プラス１ 子どもの「元気を地域に広げる」	児童が、担任以外の「大切な人」へのメッセージを往復葉書に書いて投函する、新たなお便り交換
４回目 5/18	子どもに「会って声をかける」	（担任による家庭訪問と手書きメッセージ渡し）

活動の成果：

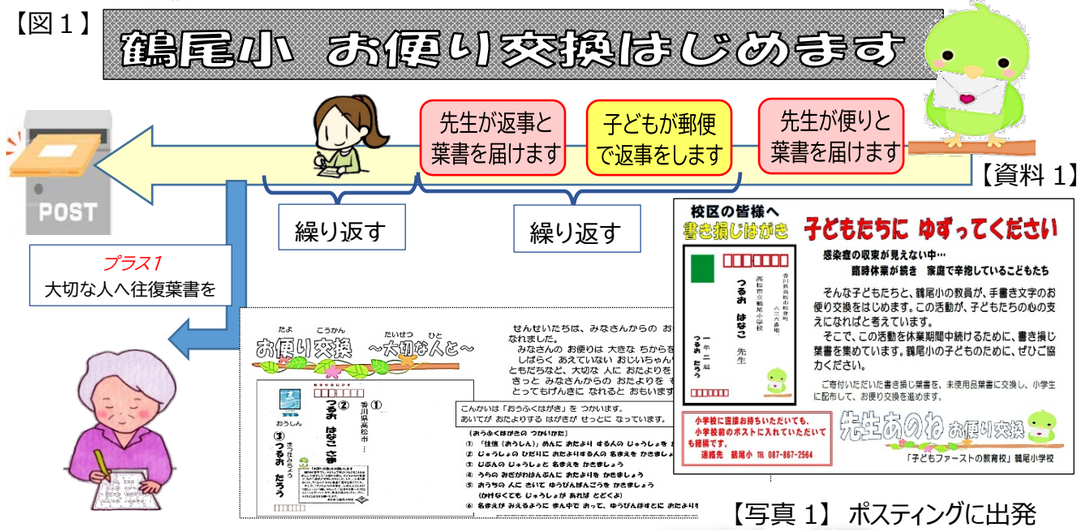
- 家庭訪問時の保護者からの聞き取りでは、児童が、自分が出した葉書の返事がくる１週間後の「お便り交換」の日を、心待ちにしていた様子を知ることができた。手書きならではの温かみのある交流は、本来年度初めに行われるべき児童と担任の関係構築の一助となった。【資料 2】
- 返事のない児童は、課題を抱えていること等を想定して、担任からの電話連絡等を密にすることができた。
- ポスティング時に学習課題を回収することで、児童の家庭学習状況を担任が把握することができた。
- 子どもからの葉書メッセージで担任が元気づけられたことから、地域に向けたプラス１の活動を創出できた。
- 感染症不安の中にあっても出席率を回復させ、５・６月に昨年度同程度の数値を維持できた。【資料３】

アピールポイント（アイディアや工夫）：

- 教員による学習課題のポスティングは、不要な外出ではないと、感染症対策時の初期に判断した。
- マスコミで紹介されることで、学校に対する大きな信頼と校区内外からの協力を得られた。(寄付葉書 3600 枚)
- オンライン授業の必要性が求められる中にあっても、手書き文字による交流活動にこだわった。
- 社会不安の中にあって、子どものもつ明るさを地域に広げ、その成果を自己効力感の向上に繋げた。

＜写真、図表添付欄＞

【図１】

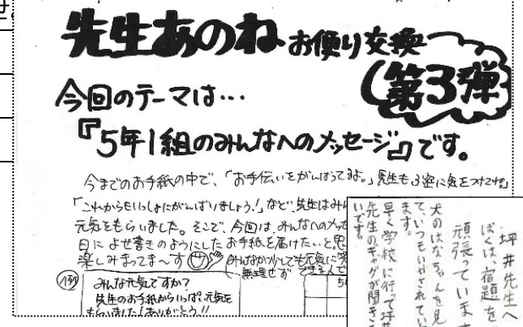


【資料 1】

【写真 1】 ポスティングに出発

【表 1】 葉書に回答を求めた担任からの課題例

１年	自分の名前の文字を色ぬりしよう
２年	読んだ本の紹介カードを作ろう
３年	自分のがんばりを友だちに知らせ
４年	クイズ「先生からのちょうせん状」
５年	みんなへのメッセージを書こう
６年	感染症差別について考えよう



【資料 2】

児童一人一人にメッセージをこたえる教員＝高松市松縄町・鶴尾小

児童と先生 お便り交換
鶴尾小、週１で心のケア

新型コロナウイルス感染拡大の影響で学校の臨時休校が長期化していることを受け、児童一人一人の心のケアに努めようと、高松市が先生方を各家庭に届け、児童からの返信を待つ「お便り交換」を始めた。市内の公立小学校・中学校・特別支援学校の計37校が参加する。

高松市の鶴尾小学校（日中博人校長、全児童350人）では21日、児童と教員による「お便り交換」を開始した。休校期間中、地域から寄せられた未使用のはがきを使って手書きメッセージを送り合うという試み。同校は「手書きならではの温もりがある手紙の交換を通じ、児童と教員の関係を構築できれば」としている。

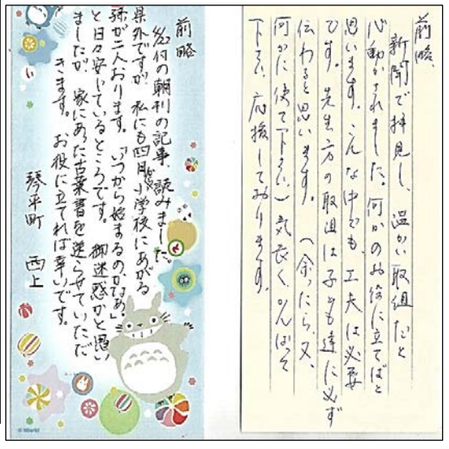
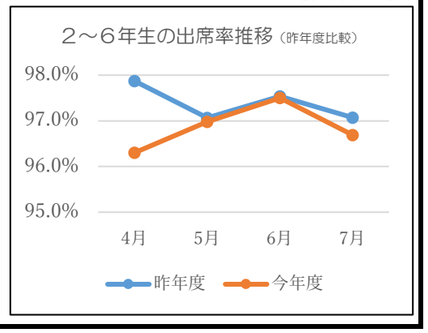
担任教諭からのメッセージや未使用のはがき、学校などから郵便で送られた課題を手に児童宅を訪問。各家庭のポストに投入した。今春から同校で勤務する2年生担任の新浮鷗教諭は「児童一人一人について理解を深めたいという有意義な取り組みでした」と話している。

同校では、衛生に使用するはがきを確保できるため、広く書き損じはがきの提供を呼び掛けている。問い合わせは同校（087・（86）7）2564）。

初日の21日は、各学年の

【四国新聞 2020 年４月 22 日付】

【新聞記事と地域からの応援メッセージ】



【資料３】